

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	16-065	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Religiosity, race/ethnicity, and alcohol use behaviors in the United States. アメリカにおける宗教、人種・民族と飲酒行動との関連		
執筆者		
Meyers JL, Brown Q, Grant BF, Hasin D.		
掲載誌		
Psychological Medicine. 2016		
キーワード		PMID
宗教、民族、人種、アルコール乱用、信仰心		27667499
要 旨		
<p>目的： 心の健康障害に対する信仰心の予防効果は、米国白人に比較して黒人とヒスパニックでより強いことが示唆されている。アルコール乱用に対する信仰心の予防効果に人種・民族間の差があるのかを検討する。</p> <p>方法： 2004-2005 年にアメリカの成人 21,965 人を対象とした NESARC (The National Epidemiologic Survey of Alcohol Related Conditions) のデータを用いた。自己申告で区別した公共レベルの宗教活動状況 (礼拝に行く頻度や宗教団体のグループ人数等) と個人レベルの宗教活動状況 (信仰心の強さ等) とアルコール飲酒頻度、アルコール依存について評価した。構造方程式モデリングで、1. 宗教に関する 3 項目 (礼拝に行く頻度、宗教グループの人数、信仰の強さ) と 2. 礼拝に行く頻度、信仰の強さをアルコール消費量とアルコール乱用診断に関して、人種毎に評価した。</p> <p>結果： 公共の礼拝に行く頻度はアルコール依存と逆相関していた。(白人 β:-0.103, $p<0.001$ 黒人 β:-0.115, $p<0.001$ ヒスパニック β:-0.096, $p<0.001$) この関係は白人とヒスパニックよりも黒人でさらに強かった。(β:0.025, $p<0.001$) 白人では個人の信仰心はアルコール乱用と逆相関しており、(β:-0.143, $p<0.001$) この関係は黒人 (β:-0.080, $p>0.05$)、ヒスパニック (β:-0.002, $p>0.05$) で認めず白人で強く認められた。</p> <p>結論： アメリカの白人と、礼拝頻度の多いヒスパニックにおいては個人の信仰心の強さがアルコール乱用のリスクを低下させる。また、黒人では公共の宗教活動はアルコール乱用のリスクを低下させるのに一部寄与している。</p>		